

科 目 名	地域環境論	授 業 形 態	講義科目
担 当 者	伊藤 雅道	単 位 数	2単位

埼玉県、丘陵地、飯能市の自然環境

1. 授業内容

本学が位置する飯能市は流域生態系がそのまま市境となっており、上流域の豊かな森林生態系と中流域の里山的自然、下流域の市街地が密接な相互関係を持ちながら不安定なバランスの上に成立している。その意味で我が国の自然環境の特色が凝縮された地域であるとも言える。本講義はケーススタディとして埼玉県や飯能市の地域環境の特色やその現状について具体的に分析し、自然と人間、文化との共生などについて考えてみたい。本学周辺の自然環境である里山生態系の生態学的特色、維持機構、管理技術などについては特に力点を置いて解説する。

2. アクティブ・ラーニングの要素

リアクションペーパー

3. 到達目標

身近な自然環境の構成要素や構造について自然科学的な立場から理解し、説明できること。複雑な自然環境についての多面的な理解、多様な事実や理論を総合して環境問題の解決について考察する能力の習得を目指す。

4. 到達目標となる駿大社会人基礎力/養成する能力要素

③情報収集力／⑤情報処理力／⑥構想力／⑬課題発見力

5. 卒業認定・学位授与方針との関連

この科目は、ディプロマポリシー（全学部）の「(1)基礎的な力」、「(2)考える力」、「(3)総合的な力」と関連し、地域環境の様々な要素の基礎的な知識を身につけ、それらがどのような問題と関連しているかを考え、地域の環境問題の解決に必要な総合的な力を養う。

6. 関連科目

「環境生物学A・B」、「環境問題の基礎Ⅰ・Ⅱ」。

7. 授業外における学習方法及び必要な時間

授業時にとったノートの内容について復習し、書籍、マスコミ報道、インターネット情報などと地域環境の特性を関連づけて理解するように努める（4.0時間）。

8. 成績評価方法

評価方法	評価割合	成績評価基準等
授業内の課題	50%	地域環境の知識と社会との関連が正しい日本語で理路整然と説明できること。
期末試験	50%	授業で取り上げた基礎的項目について正確に理解していること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題については授業内で模範解答やその考え方について解説する。

10. 実務経験のある教員による授業科目等

担当教員の実務経験	実践的な教育の取組
—	—

授業計画	
第1回	埼玉の自然概説
第2回	関東平野の地形とその成り立ち
第3回	埼玉県および加治丘陵の地質と地理
第4回	入間川とその流域の自然
第5回	入間川の生物
第6回	荒川とその流域の自然
第7回	埼玉県の植生概説
第8回	埼玉県の植生各論
第9回	里山生態系入門
第10回	里山生態系の管理技術
第11回	里山生態系の保全（事例紹介）
第12回	里山の動物
第13回	里山と外来種
第14回	里山と希少種
第15回	全体のまとめ

11. テキスト・参考書等

書名	著者	出版社	ISBN	備考
—	—	—	—	テキストは用いない。 参考書は授業時間内に 随時紹介する。